

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和4年度病害虫発生予報第6号(9月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和4年度病害虫発生予報第6号(9月)

令和4年9月2日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は平年並 中生の主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量はほぼ平年並	± — ±
	紋枯病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	コブノメイガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 イネカメムシ及びミナミアオカメムシの発生量はやや多い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	＋ ± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ± ＋
	吸実性カメムシ類 (ミナミアオカメムシ)	やや多い	県全域	8月下旬の水稲でのミナミア オカメムシの発生量はやや多 い	＋

・防除対策

〔イネ・紋枯病〕

高温多湿な条件で発生が助長されます。上位葉に発病すると減収などの被害に繋がるので、上位葉への進展や多発の兆候が見られたら、穂揃期までにモンカットフロアブルやバリダシン液剤5などで防除しましょう。薬剤散布する場合は株元まで届くように丁寧に散布しましょう。

本年多発したほ場では、宿主となる畦畔雑草を冬期に除草しましょう。

〔イネ・トビイロウンカ〕

第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。坪枯れの初期症状が確認された場合は、直ちに防除を実施しましょう。また、収穫適期がきたら速やかに収穫しましょう。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第5号（トビイロウンカ）」を参照してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

8月下旬の巡回調査において、斑点米カメムシ類全体の発生量は平年並でしたが、イネカメムシとミナミアオカメムシの発生量はやや多い状況です。また、西尾市及び豊川市に設置した予察灯においても、イネカメムシ及びミナミアオカメムシがやや多く誘殺されています。発生が確認されたほ場では、速やかに防除しましょう。防除薬剤は、8月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

幼虫の寄生を確認したら8月2日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考に防除しましょう。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

幼虫の寄生を確認したら8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考に防除しましょう。

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

8月下旬に実施した巡回調査における水田のすくい取り調査で、ミナミアオカメムシがやや多い状況です。水稲の収穫後、周辺のダイズほ場に移動する可能性がありますので、注意しましょう。

・留意事項

フタオビコヤガ幼虫が多く確認されている水田があります。本田での発生が多く、被害が進展している場合は防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の気温は高い	- +
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は少ない 8月下旬の被害果率は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	- ± ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない 8月にまとまった降雨が複数回あった 9月の降水量はほぼ平年並	- + ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はほぼ平年並	+ ±
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

〔ブドウ・べと病〕

早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

〔カキ・炭疽病〕

スコア顆粒水和剤、トップジンM水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

果樹カメムシ類は、既に離脱開始時期を過ぎています。ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は成虫発生ピーク時です。表を参考に適期防除を実施しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第6世代	8/28	8/27	8/22	8/24	8/29	8/30	8/27	8/26	9/4	8/26	第4世代 8/18
第7世代	9/17	9/16	9/9	9/12	9/18	9/18	9/15	9/16	9/25	9/14	第5世代 9/10
第8世代	10/13	10/12	10/1	10/5	10/16	10/16	10/9	10/9	10/28	10/8	第6世代 10/16

各地のアメダス平均気温から予測（第6世代から第8世代まで）。

9月1日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	やや少ない	県全域	前年11月下旬の発生量は少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ダイコン	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	キャベツでの8月下旬の発生 量はやや多い フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	＋ ± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

キャベツ及びハクサイは、育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。

ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。

定植後はトルネードエースDFやアニキ乳剤などで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ〕

ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウは、中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツはアニキ乳剤やプレオフロアブルなどで、ハクサイはヨーバルフロアブルなどで、野菜類はデルフィン顆粒水和剤などで防除しましょう。

オオタバコガは8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

・留意事項

アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。強風を伴う雨等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、7月下旬の巡回調査で炭疽病の発生が多い状況でした。育苗ほで炭疽病の発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。防除対策等については、8月2日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白さび病	平年並	山間部	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	－
	ハダニ類	多い	県全域	8月下旬の発生量は多い 9月の気温は高い	＋ ＋
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 9月の気温は高い	＋ ± ＋

・防除対策

〔キク・ハダニ類〕

カネマイトフロアブルやアグリメックなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

〔キク・ハスモンヨトウ、オオタバコガ〕

ハスモンヨトウは、プレオフロアブルやアニキ乳剤などで防除しましょう。

オオタバコガは8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」 (<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>) を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台9月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 30% 高い : 50%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 30% 多い : 40%

〔日照時間〕 少ない : 40% 平年並 : 30% 多い : 30%